

はじめに

近年、我が国では、少子化、高齢化、核家族化の進行などによる社会構造の変化に伴い、ライフスタイルや価値観等が多様化し、私たちの食生活やこれを取り巻く状況が大きく変化してきました。こうしたことから、児童生徒の食生活においては、偏った栄養摂取や朝食欠食、さらには、外食や加工食品への過度の依存など、様々な問題が指摘されるようになり、児童生徒の心身への影響が懸念されています。

食育は、児童生徒の心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものです。

本県においても、児童生徒の肥満傾向児の出現率が全国平均を上回る状況にあるなど、食生活等に起因する様々な健康問題が危惧され、食育の一層の充実が求められています。

このような中、県教育委員会では、「うつくしま教育改革推進プログラム～ふくしまの教育7つの約束～」において食育の推進を掲げ、豊かな食育体験を通して、食べる力、感謝の心、郷土愛をはぐくむことを目標として、「未来へつなぐ食育推進事業」等に積極的に取り組んでまいりました。また、平成19年度より学校における食育の方向を定めた「ふくしまっ子食育指針」を示すとともに、食育の中核を担う栄養教諭を配置し、食育の推進に努めているところです。

このたび、各学校において食育を一層効果的に推進することができるよう、『未来へつなぐふくしまの食育指導資料 栄養教諭を活用した実践事例集』を作成しました。この指導資料は、栄養教諭を活用して各学校や地域、家庭において実践された食育の事例を紹介し、効果的な食育推進の方策について示しています。

各学校においては、この指導資料を有効に活用しながら、心身の成長期にある児童生徒に対する食育の重要性を認識し、全教職員の共通理解のもと、保護者や地域との連携を図りながら、未来を担う子どもたちが生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることができるよう、食育の充実に向けて一層取り組まれることを期待します。

結びに、指導資料の作成に当たり、御尽力いただきました関係の皆様方に御礼を申し上げます。

平成22年3月

福島県教育委員会
教育長 遠藤俊博